平成 24 年度　帰国隊員/青年支援プロジェクト　実施報告書		
氏名：　出合　祐太	実施国：ブルキナファソ	協力活動
活動名称	ブルキナファソ　プロチャレンジプロジェクト 2014	
実施期間	2013 年 11 月～2014 年 8 月	

（1）申請した動機

野球を通じて同国社会の発展に寄与する人材育成を行なうために日本国内での研修費用が必要なため申請させていただいた。　きっかけは野球（スポーツ）ではあるが、同国に必要なことは未来（ビジョン）を描ける人材であると仮説を立て、2012 年より実施しているプロジェクトである。

第一回（2013 年に）に招聘したサンホラシィナ（当時 15 歳）は現在四国独立リーグ puls 高知ファイティングドッグスの練習生として活動している。

若干 15 歳ではあったが、本人のモチベーションと物事をクリエイティブに発想することを重点的に育むことによって、野球の技術向上のみならず、日本語の習得（日常会話は可）、広い視野を持つ人物に成長した。この実績により 2014 年の第二回の実施をするためにこの度の申請に至った。

（2）活動内容概要

1、日本語研修、（日常会話習得のため）

2、各教育機関での交流（小、中、高、大学）

3、アフリカンフェスタ開催（北海道富良野市にて）

4、北海道日本ハムファイターズ交流

5、各種チームでの研修（大学、社会人、プロ、）
6、トライアウト受験（プロテスト）

7、アクションプラン作成

（3）活動の成果・苦労した点・反省点等

活動の成果
2014 年度は 4 名の選手を招聘し、2013 年の手法を活かして技術向上、語学、日本人との意見交換、各種研修を行なえた。何よりもそれぞれの未来への創造性（アクションプラン）を育むことができたことが大きな成果と感じる。
苦労した点
4 名同時の招聘で協力者不足だったため、効率的なことができなかった。
反省点
受入先の課題（滞在先を今後どのように確保するかが課題）

（4）今後のプラン

1、2015 年以降も招聘プログラムは継続する予定。しかし、今後は野球選手のみならず他分野に関しても現地で意欲的に活動している人物がいた場合本プロジェクトへの参加を勧めていきたいと考えている。
分野は違えど、目的を達成するための手法、発想は同じだとこれまでのプロジェクトで実感している。したがって、今後は 2019 年までブルキナファソの首都ワガドゥグの一地区に対して集中的な研修プログラムで様々な分野の発展を行ない、本来の目的である社会の発展に寄与したい。（10～15 職種）

2、2020 年の東京五輪での野球競技復活アクションとして 2016 年秋に西アフリカナショナル選抜チームを設立し、日本国内のプロ野球チーム（高知ファイティングドッグス、日本ハムファイターズ、侍ジャパンなど予定）との強化試合および、各国のアクションプランを作成し、2020 年への大きな発展を目指す。